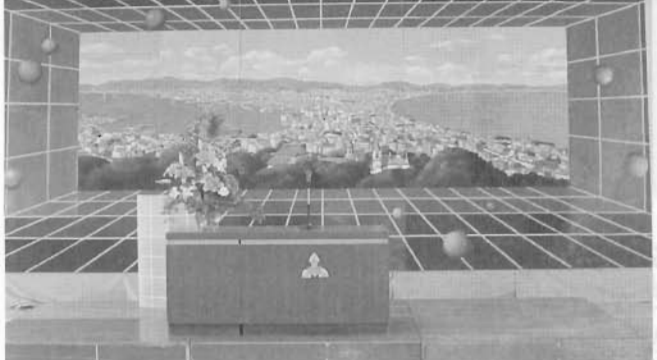


第55回全道造形教育研究大会 函館大会



# 第55回北海道造形教育研究大会函館大会特集



目次

- ・大会風景<表紙>..... 1
- ・函館大会を終えて  
    (大会実行委員長)..... 2
- ・この夏、函館大会の成果と  
    課題(大会研究部長)..... 3
- ・函館大会に寄せて..... 4~7
- ・地区サークル・NOW  
    (近況だより)..... 8
- ・次期大会(札幌大会)予告..... 8



# 北海道造形教育連盟報

No.121 2005.12.7発行  
 発行 北海道造形教育連盟  
 委員長 今 裕子  
 事務局 札幌市立前田北小学校 菅原 清貴  
 〒006-0820  
 札幌市手稲区前田10条18丁目4-1  
 TEL684-0123・FAX684-3497



## 函館大会を終えて

第55回全道造形教育研究大会函館大会

実行委員長 藤川 潔

(函館市立日吉が丘小学校)

第55回全道造形教育研究大会函館大会にご参集いただいた皆様、お力添えくださった皆様、支えていただいた全道の会員の皆様、本大会の成功を心から喜び、この紙面をお借りしてお礼とご報告を申し上げます。全道造形教育の発展の一助となったであろう有意義な時間を現出できましたのは、北海道造形教育連盟をはじめ、渡島美術教育研究会、檜山造形教育研究会の方々のご支援を得て、道南の力を結集できたたまものとお礼申し上げます。

台風7号が道南を直撃するという予報の中、最悪の事態も想定して準備にあたる我々の思いが通じてか、大会当日は晴天に恵まれました。300名を越える参加者の皆様の思いと同じ、アツい一日となりました。「めざめる感性（こころ）きらめく個性（かたち）」を大会テーマに、「地域空間がいざなう造形活動のひろがり」を研究主題として、幼・小・中合わせて7つの授業が公開されました。どの授業も、道南函館という地域をしっかりと見据えたものであり、だからこそ子供の心を揺り動かし、豊かな情操を培うものになったと感じております。

開会式には、中学校の3つの授業を見られた渡島教育局長 西村 守様はじめ、第1分科会にも参加いただいた前全国町村教育長会会長の田島隆様など、この大会の成功を願うたくさんのご来賓が駆けつけてくださいました。連盟委員長 今裕子先生、同事務局長 菅原清貴先生、さらには顧問の方々の熱い思いがさらに会場を暑くしていました。正面ステージには湯川中学校美術部制作の縦3メートル、横7メートルの巨大な函館の街の絵。開会に先立ち、会場の明かりが落ちて、暗幕が窓を覆います。オーと言う歓声があがりました。正面の絵は函館の夜景となり光が瞬いていたからです。さらには、その夜景の空に花火の映像が重なります。

参加者全員の心に、この日の記憶が強く深く刻

み込まれた瞬間だったと思います。

次に、渡辺保史氏による講演です。去る夏の日、小中学生を対象に行われたハコデジアート探検隊の活動報告をメインに、環境デザインなど様々な実践が語られました。パソコンを駆使し映像をまじえた講演は、参加者に多くの示唆・刺激を与えてくれたものと思います。なお、ハコデジアート探検隊の作品はインターネットを通じて公開されます。小学生は「ハコダテ百面相～色と形で探すカオ、かお、KAO」がテーマで、中学生は「函館、夏発見！再発見！～色と形で感じとろう夏の季節感」がテーマ、それぞれユニークな作品に仕上がっています。この活動は、新聞・テレビ等のニュースでも取り上げられ、本大会の新聞報道と同様に、造形教育の果たす役割を広く地域に発信するものになったと確信します。

各地からの提言発表が行われた7つの分科会は時間を惜しんで熱心な討議が行われました。その助言者には、教育大学函館校の小平征雄教授や佐藤昌彦助教授、繪面和子講師等が居並び、遠い記憶へと繋がります。それは三十数年前、初任地釧路管内で味わった思い出です。初めての研究会に参加した時、その会場は教育大学釧路校の研究室であったことに驚きました。大学と学校現場の距離の近さに羨望を覚えました。今、函館は大学と研究会が手を携えて行動できるようになっています。幅広くたくさんの知恵と経験と知識を結集することで、なお一層、美術教育の発展が図られるものと思います。

閉会式を兼ねたレセプションは、由緒ある函館五島軒本店王朝の間で賑やかに行われました。連盟旗を次回開催地の札幌へと引き継ぎ、5年ぶりの開催となった本大会も、大きな喜びの中で終わることができました。ご参加いただいた皆様、支えていただいた方々に心よりお礼申し上げます。



## この夏、函館大会の成果と課題

第55回全道造形教育研究大会函館大会  
研究部長 柿崎 雄二  
(函館市立昭和小学校)

### ○成果：函館大会がいざなうもの

今夏の全道造形教育研究大会・函館大会は、さまざまな人々に支えられていました。大会テーマ「めざめる感性（こころ）きらめく個性（かたち）」は、函館大会関係者の総意により生まれました。そして研究部を中心に、研究主題「地域空間がいざなう造形活動のひろがり」が設定され、実践されました。私たちが目指したのは、「子供たちにとって身近な環境としての地域空間に焦点をあて、そのよさや美しさに気づき、感動するような造形活動を展開することにより、より一層感性を磨き個性を伸長すること」でした。

授業づくりは日夜進められ、授業者の熱意と函館美研の勢いを感じました。そのため、幼稚園・小学校・中学校、合わせて7つの授業を公開することができました。また、たくさんの方々の理解と協力で、多くの提言とご助言をいただくこともできました。研究内容は、7つの公開授業全てに集約されました。また、研究の成果は、子供たちの活動する姿を思い浮かべていただければ、おわかりのことと考えます。

午後からの分科会におきましては、みなさまからの率直なご感想やご意見をいただきありがとうございました。この大会を通じて学び合ったことをもとに、豊かな情操、つまり「人間として大切な心」を思い出させる造形教育の果たす役割を再認識し、造形教育の重要性を家庭に、学校に、地域に、訴えながら実践していただくことを願っています。

### ○課題：子供にとって大切なもの

図工・美術の時間は、子供たちにとって、大好きで楽しい時間ではなくてはならないと考えます。好きなものを好きなようにつくる（子供が自由に自分を表現する）ので、もちろん、めんどくさかったりしません。子供たち一人一人が、「授業って楽しい！」と確かに感じることでできる、とても大切な時間です。

そこにあるのは、子供たちのキラキラした目、思いをかたちにするワクワクした心、それを手助けする私たち大人、そして、環境。子供は、夢中になって自分たちの世界を創ります。

感性（こころ）がめざめたとき、何かに没頭し無心になる姿があります。個性（かたち）がきらめいたとき、達成する嬉しさに満ちた顔があります。最後に、小さな手でつくられた宝物のような作品と感動が残ります。作り手が楽しまないと、人を感動させることなんてできません。

今の社会は無駄を切り捨てようとしている感じがします。もしも、この大切な時間が削られ、大幅に失われていくのならば、人間の最も大切な部分が、公教育から切り落とされることになるのかと思えません。私たちは、失われた時間を懐古したとき、あの無心になって活動する時間が与えられたこと…この幸せな時を懐かしく思うに違いありません。



小学校授業「函館・元町、スローアーカイブス」



全道ネットワーク会議から

## 幼稚園 ひと・ものからのいざない分科会

### グラウンドに広がる海の世界

授業者：大 山 みのり

(北海道教育大学附属函館幼稚園)

心配していた天気も回復し、全道造形教育研究大会(幼稚園)は、予定通りグラウンドで行われました。グラウンドには、ペットボトルの帆船、大きなクジラ、大きなたこ、海の入り口を思わせる大きな岩や魚、ペットボトルで作ったゴム動力船など、子供たちがイメージした海の制作物が環境となり、海の世界が広がりました。

登園した子供たちは、いつもとは違うグラウンドに気付き、早速、友達を誘い合って海へ出かけ遊び始めました。私が担当している年少組の子供たちは、本当に水の入ったプールで揺れ動く魚を釣り上げようと、何度も失敗しながらも、自ら工夫して釣り上

げる姿が見られました。

特に年長児は、ペットボトルで作ったゴム動力船で、ゴムの巻く方向や回数で進行方向やスピードの違いがあることに気付き、工夫しながら遊ぶ姿が見られました。カラーソフト積み木とビニールシートで作った魚釣りコーナーでは、参観者の方々も活動に参加し、共感し遊んでいる場面が見られていました。

午後から行われた分科会では、幼稚園、小学校の教師間で活発な意見交流が行われました。

表現活動では、子供のもつ力を信じて最小限の援助をしていく幼稚園に対し、年齢が低ければなんにもできないだろうとの思い込みで、過剰な援助をしようとする小学校との間に、発達のとらえ方の違いを感じました。幼小間の連携をスムーズに行うためにも、幼稚園教育を充実させ、幼稚園、小学校の教師間で具体的な情報交換を密にしていけることが必要であることを強く感じました。

# 素晴らしい出会いが、熱い語らいが

～函館大会に寄せて～



幼稚園「ひと・ものからのいざない」分科会

小学校授業「私たち街づくりデザイナー」



## 小学校 くらしからのいざない分科会

### 函館大会を振り返って

授業者：山 田 光

(函館市立旭岡小学校)

前回の50回大会では渡島からの提言者としての参加だったので、何か物足りないものを感じていたのですが、今回の函館大会では授業者として、「大会の中核の一つとなるような授業ができれば」と思っていました。また、自分としても、毎年参加している全道造形研究大会に何を求めて出かけるかという、「今までにない新しい取り組み」やいつかやってみようかなと思うような「面白い取り組み」を求めて参加しているので、自分が授業をするときも、そういった授業ができればと思っていました。

今回の研究主題『地域空間がいざなう造形活動のひろがり』を受けて、「異国情緒ただよ元町の街

並みを利用して、今までに誰もやったことのない授業を！」と思い、こすり出し、写真、絵という素材を複合的に扱った「函館・元町・スローアーカイブス」という授業を組んでみました。

今回の実践を通して思ったのは、何より子供たちが、写生会や写真撮影、こすり出しなどの活動で元町の街並みを訪れる度に、その魅力や価値に気付き、積極的に元町の街とかかわりながら、生き生きと活動する姿が見られたということです。

分科会では、今回の活動について、一部の人からは総合的な学習ではという声もありましたが、自分としては、今までにない新しい図工の授業のスタイルを提案できたのではないかと考えています。

今後も全道の先生方と共に新しい発信をしていきたいと思っていますし、次年度の大会が札幌ということで、また、新しい実践、面白い実践を期待し、足を運びたいと思っています。



## 中学校 ひとからのいざない分科会

授業を終えて

授業者：齋藤悦子

(函館市立赤川中学校)

授業づくりでは、函館市美術研究会で、顧問の先生方を筆頭にたくさんの先生方に、「どんな手助けでもするよ。」と言ってもらえたのがとても心強かったです。本当にいろいろな面でバックアップしてもらえたので、「美研の仲間は面倒見もいいし、あったかいなあー。」と、つくづく感じました。

それからは、大会テーマ「めざめる感性 きらめく個性」、そして、研究主題「地域空間がいざなう造形教育」に迫る授業づくりにとりかかりました。

私は、自分にとっても新たな試みである「鑑賞」の授業をすることにしました。

今回は、地元の作家「田辺三重松」を取り上げま

した。田辺の時代別の絵を生徒に調べさせながら、人間性や生き方に注目し、自分の生き方も振り返る機会になればと思っていました。

生徒は、地元函館の作家の絵の変容に驚き、「なぜ、そのような絵を描いたのか？その理由を知りたい。」と思うところから、これまでの受動的な鑑賞から感性をはたらかせる能動的な鑑賞に変化していったと思います。

何よりも一番生徒を感動させたのは、ゲストティーチャーである三箇三郎先生の生の話です。三箇先生のことは、登場するその時まで秘密にしていたので、生徒の驚きはいかばかりだったか…。話を聞く目の色がガラッと変わったのには私も驚きました。

三箇先生のお話は聴く者をひきつけ参観者の方々も感動しているのが分かりました。

今回の大会は、生徒にとっても私自身にとってもとても勉強になり、よい経験となりました。

## 中学校 「ひとからのいざない」 分科会



中学校授業「縄文の灯」



小学校「ひとからのいざない」分科会



中学校授業「田辺三重松に学ぶ」

## 小学校 ひとからのいざない分科会

忘れられない輝きを胸に

提言者：新保理奈

(別海町立別海中央小学校)

「造形教育研究大会で提言してみないか？」そんな話を頂き、驚きと戸惑いを隠せませんでした。実は、私自身にとって図画工作は大の苦手分野…。迷いましたが、思い切ってお引き受けすることにしました。

今回の提言は、『旅立ちに向けて』と題した、前任校での卒業間近の6年生における「総合的な学習の時間」と関連づけた取り組みを紹介させていただきました。

たった8人の卒業生でしたが、一人一人の「家族への思い」「卒業への思い」を大切に、陶芸作品づくりを通して自分らしい作品をつくることの楽しさ、

出来上がったときの充実感、実際「花」を生けて家族にプレゼントしたときの感動など、子供たちの姿から私自身素晴らしい経験をすることができたと考えています。

実際彼らがつくった作品たち（花器・箸置き等）は、今でも彼らの生活の中で息づき、家族に温かさや潤いを与えてくれているようです。

大会当日には、私の提言に耳を傾けてくださり、多くの貴重な意見をいただき大変感謝しています。

今回の研究大会で、子供たち一人一人の心と更に寄り添い、それぞれの思いを形にできるよう精一杯支援していきたいという思いを強くもつことができました。これからも、函館大会で見た宝石のような子供たちの輝きを忘れず、私自身もがんばります。

次回の大会も楽しみです。貴重な経験をありがとうございました。

## 幼稚園 ひと・ものからのいざない分科会

### 函館大会の記録を通して

記録者：小林 恵理子

(函館市立日吉幼稚園)

今回の大会で「ひと・ものからのいざない」という幼稚園の公開保育と幼稚園・小学校低学年の提言からなる分科会Ⅰの記録をさせていただきました。

公開保育については、幼児の豊かな感性を育むために子供が興味をもつ、また試すことができる環境構成、その中で実際の体験と仮想の体験を繰り返させる教師の援助の必要性について討議されました。

造形をテーマにしながらか生活の流れを大切にしたい幼稚園らしい保育であったことは、参観された小学校の先生方からの意見に表れていたようです。

提言は、地域とのかかわりを素材にした活動に子供たちが気持ちを動かしていく幼稚園の提言、また、

子供たちの感じる心や友達との気づき合い、評価の押さえをテーマにした小学校の提言があり、双方の実践にも教師の感性が活かされているという話が出、今の時代に合った内容の提言ということで、交流が深まりました。

私は、保育で描画をした石を水に入れ泡立つ姿に「蟹が生きてる！」と目を輝かせた子供の驚きの声、幼稚園の提言のスクリーンに映し出される子供の表情、会場に持ち込まれた実際の小学生の子供たちの作品に、今大会のテーマの「めざめる感性 きらめく個性」を感じたように思います。

最後に、「造形教育＝造形遊びと捉えるべき、幼稚園・小学校低学年時代に日常的な『素敵』を見つけるという文化の積み重ねが大切。」と話されていた助言の先生の言葉を皆さんにもお伝えしたいと思います。

参加させていただいき勉強になりました。ありがとうございました。

## 小学校 ひとからのいざない分科会

### 函館大会を終えて

記録者：松田 恭子

(北海道教育大学附属函館小学校)

今回の函館大会には、小学校分科会「ひとからのいざない」の記録者として参加させていただきました。函館市立昭和小学校と附属函館小学校の6年生が、共にアイデアを出し合いながら、図画工作科の学習を進めるといふ新たな試みのためか、様々な質問や意見が参加者の先生方から出され、熱の入った検討会となりました。

2校の子供たちの『函館』という地域に対するとらえ方の違いや、交流期間の短さ、グループの分け方などについての心配の声が上がる中、1つ1つの問題をクリアしながら交流を深めてきた2校の取り組みの様子が改めて紹介されていきました。10年後の

函館に対する願いが、他校との交流を通して、個人から集団への思いへとつなげることができたことは、大きな成果の一つだといえるのではないのでしょうか。

また、提言では、国語科の枠を超え、啄木の短歌からイメージしたものを作品にするという実践と、総合的な学習の中に位置づけた陶芸の学習についての実践が発表されました。提言の2人の先生方が、子供と共感し合いながら授業を進めていった様子が紹介され、参会者からは、より子供の実態に合った取り組み方にするにはどうしたらよいか、活発な意見が出されました。

この分科会では、大会テーマにもある『感性』や『個性』を造形活動を通して、どのように伸ばしていくかについて考える貴重な時間をもつことができたと思います。

## 小学校 くらしからのいざない分科会

### 函館大会に参加して

記録者：久保杉 由佳

(函館市立千代田小学校)

今回の函館大会には、記録係として参加させていただきました。授業者や提言者、そして、参加者の方々の発言を記録し、まとめるために再構成することを通して、私自身がより深く内容に触れることができたように思います。

第4分科会では、途切れることなく様々な意見交流がなされていました。

授業では、新しい視点からのアプローチとして、函館の歴史ある街並みそのものを地域素材としてとらえていました。また、提言でも、身近にある自然を子供たちの思いと結び付け、子供たちが生き生きと活動に取り組む様子が伝わってきました。図工の

時数が減っている中、図工の枠にとらわれず総合的な学習や他の教科とのつながりの中で、生きる力をつけ、自分のくらしを豊かにすることに成功していました。作品への愛着をもたせること、子供の思いを広げて次の学年につなげることの大切さを改めて感じました。

話し合いの中で印象的だったのは、「教師は子供の感性を揺さぶる素材を用意する責任があること」、「どんな地域であっても、子供たちの普段の遊びや生活を子供の目線で見つめ直すことで、必ず特色ある地域素材が見つかるだろう」という言葉でした。

今回の実践は、大会のテーマである「めざめる感性(こころ)きらめく個性(かたち)」に、それぞれが多様なアプローチで迫る内容であったと思います。

新しい造形教育の可能性を示してくださった先生方、お疲れ様でした。本当にありがとうございました。

## 小学校 くらしからのいざない分科会

### 函館大会に参加して

参会者：藤 谷 貴 代

(乙部町立乙部小学校)

以前の大会と異なる点は、どの学年においても、子供たちは机を使わず自由に動く授業だったことである。個の自主性を尊重した授業だけに、その場当たりにならない様、使う素材や子供の活動、子供の感性を熟知していなければならない。授業者の事前の準備・ご苦労は如何ばかりだったかと思う。

特に小学校5年部会では、元町地区から実際に壁や道路をこすりだしたフロッターージュをもとに、元町の風景を再構築する授業であった。一般的には、幼児の遊びとして「こすりだし」活動に取り組むことがあるが、そこにとどまらず、高学年としての美的感覚と技術向上にポイントをおいた授業であった。特に石畳のフロッターージュ

を立体化してハリストス正教会にしたり、色々な場所でこすりだした素材をサイコロの面に貼りどこが出ても「元町」にしたりするなど、子供たち個々の発想・構成力が生かされていた。それぞれが自分の出来る力をもち寄り、グループとして共同の作品を作りあげていた。よりダイナミックな表現へと浄化していくことで、子供にとって大きな刺激となり、生き生きと活動する様は変容としてとらえることが出来たのではないかと思う。

分科会においても、流木をつかったシーソー制作、校舎内の窓ガラスに近くの公園を自分なりの表現で作画した実践等の発表があった。

地域素材とは、物だけではなく、活動や経験そのものも地域素材となり、個々の子供の心を揺さぶるに足りうることを示唆していたと思う。また、観点と評価の一体化を図るための方策を、教師としてはどのようにとるか等活発に意見交流がなされ、有意義な研究大会であった。

記念講演  
「発見」と「共創」の学びをデザインする  
情報デザインが媒介する造形教育と  
地域コミュニケーション

講演会から



渡辺保史氏



会場に展示された  
大会アートプロジェクト  
〜ハコデジアート探検隊〜コラージュ作品

## 小学校 ひとからのいざない分科会

### 函館からのいざない

参会者：中 澤 孝 仁

(岩見沢市立第二小学校)

小学校『ひとからのいざない』分科会の授業、「わたしたち街づくりデザイナー」のタイトルは、私にとって大変魅力的で、大会前から妄想が膨らみ、心はずすでに函館にいざなわれていた。

体育館での公開授業。そこには2校から集まった子供たち。なるほど、他校との交流を通し、いつもと違う価値観を得るということか。音楽科や総合等ではよく行われているが、図工では私自身経験がない。子供も互いに打ち解け合い議論している。楽しそうだ。

肝心の「デザイン」はポスターだった。確かに子供にとって街の空間そのもののデザインは難易度が高く、出来たとしてもそれを実際の街づくりに生かすことは難しい。しかし、今回の授業のようにポスターをつくり、多くの市民に見てもらふことにより、『自分たちの思い』を街づくりに反映させることは

可能であると考え。他校との価値観の交流。ポスターを使ったスケールの大きな思いの伝達。学ぶことの多い公開授業だった。

分科会では2つの提言があった。1つ目は函館という地域を生かし、石川啄木の詩を絵に表す実践である。提言後、多くの意見交換がされたが、「自分が味わった感動を子供たちにも伝えたい。」という教師の熱意を感じる実践だった。今後、更に改善され素晴らしい題材になると思われた。

2つ目は小学校卒業という転機を迎えた子供たちが家族について振り返り、感謝の気持ちを込めて陶芸作品をつくる実践であった。そこまではよくある内容だが、今回は「実際に、作品に花を生けて展示し、一言添えてプレゼント」したのである。子供の思いが作品を通じ、きちんと家族に伝わるよう配慮した別海の先生の実践であった。

参加するたびに多くの実践に触れることができる全道大会で、今年も多くのことを学ばせていただいた。

大会役員をはじめご尽力された先生方、本当にありがとうございました。

# 地区サークル・NOW



## 地区サークル近況だより

### 「豊かな感性をはぐくむ造形教育」

帯広市教育研究会図工美術部会 **野原圭介**  
(帯広市大正小学校)

今年度の帯広市教育研究会図工・美術部会は、『豊かな感性をはぐくむ造形教育』を研究テーマとして活動を進めています。

70名を超える部会員数は他教科と比べても圧倒的に多く、それだけ変化の激しい社会において、豊かな感性をはぐくむ造形教育の果たす役割を認識し、深く関心をもって参加している先生方が多く、その熱意を強く感じます。

具体的な軸となる各事業は、年3回の作品交流会、授業研究会、実技研修会、美術館鑑賞、帯広市小中学校造形展など幅広く、事務局の担当者が中心となって取り組み、各校との交流のみならず、地域・社会に向けて造形活動を広げる場となっています。

10月は2回目となる作品交流会を皮切りに、様々な取り組みを控えており、芸術の秋一色といった感じです。特に11月2日から開催される「帯広市小中学校造形展」は、市内の小中学校全ての児童生徒の作品が集まるため、保護者・地域の関心も高く、造形教育の実践交流や現状をアピールする場として非常に役割が大きく、地域に根ざした芸術文化活動の一つとなっています。

今後も子供の感性を豊かにする造形活動の更なる広がりや活性化を目指して歩み続けていきたいと考えています。

### 「結びつきの強い活動をめざして」

渡島美術教育研究会 **水口 司**  
(大野町立大野中学校)

今年度、藤澤建二新会長（大野町立萩野小学校長）のもと、会員26名でスタートしました。

活動内容は、授業研究、実技講習会、美術鑑賞会、児童生徒美術展の開催、全道造形教育研究会への参加協力と、ここ数年継続し、それなりの成果は上がっていると感じています。

組織拡大は課題ですが、私は未組織の方でもプロの教師としてのあり方を信じています。

- まず、目の前にいる子供の幸せのために自分の力量を向上させようとする情熱が前提にあること。  
(教師としての基本)
- 次に、そのために自分の視野と心を広げて多くの機会に自分の実践を発表（学ぶ）していこうというエネルギーを発揮し、その結果として多くの実践者と知り合い、仲間になること。  
(ネットワークづくり)
- そして、学んだことを自分の実践と目の前の子供にフィードバックしていくこと。  
(スパイラルサイクルの拡大)

どんな場合にも、最後にどれだけその人との「結びつき」が強いかが決め手になります。

地理的に学校間の距離は離れていても、人と人の距離感を感じないような、密接でより太い「結びつき」を作っていける活動を目指していきたいと考えています。

## ○次期大会予告○

### 第56回 全道造形教育研究大会 札幌大会

大会テーマ：造形教育を「ひらき」、「すくすく育て」、「つくるの大好きな子ども」を  
～研究主題「確かな表現を実感する造形教育」～

造形活動を見直す視点としての…

〈子供のつくる喜び〉を問い直し、教材化を図るための…

そして、造形教育の価値や可能性を発信する **「3つの扉」**

〈くらしと造形〉

〈心と造形〉

〈広がる造形〉

◇日時 平成18年7月26日(水)・27日(木)

◇場所 札幌市立澄川西小学校(1日目)・札幌芸術の森(2日目)

◇問い合わせ先 菅原 清貴 (札幌市立前田北小学校)

〒006-0820 札幌市手稲区前田10条18丁目4-1



全校種でプレ大会を実施  
(小学校プレ大会の様子：10月5日)

## あとがき

編集にあたりながら大会当日の夏らしい青空と熱気一杯の会場を思い出していました。全道各地から多くの参加者が集い、熱く語り合い研究を深めることができた素晴らしい大会でした。その函館大会の特集号である第121号をお届けすることができました。お忙しい中、原稿をお寄せいただきました皆様に心よりお礼申し上げます。今後も、連盟報の内容の充実に努めて参りますので、一層のご協力をよろしく願いたします。

〈造形教育連盟広報部〉

中山 龍雄	小林 充裕
土肥 宏充	松本 和彦
富波 修	山室ゆかり
伊藤 聡美	平井 歩
東 尚典	